

とく
徳

ほう
朋

じがまんぞく しんじつきょう
自我満足と真実教

かめい ひろし
亀井 鑛

かめい ひろし

1929-2021

愛知県出身。若い頃より熱心に聴聞し、同朋新聞編集委員、NHK「こころの時代」司会者としても活躍する。

東本願寺きょうがくけんきゅうしよちよう教学研究所長だった仲野良俊なかのりょうしゆん師の講話で、私自身ちようもん聴聞して感銘し、忘れられぬ話です。仲野師が若い住職たちと毎年正月、インドぶつせき仏跡参拝中に行かれたある年。

釈尊しゃくそんが説法された霊鷲山りようじゆせん頂上へ登るのに、古びたリフトに乗せられて、「途中ロープが切れて落ちそうだなあ」とおっかなびっくり。それでもどうやら無事頂上てんじように着いた時、添乗のインド人ガイドさんが、「皆さん、無事頂上へ来ましたね。これも皆さんの日頃の信仰心あつが篤いおかげに違いありません。その心を受け止めて仏さまが守ってくださいました。どうか仏さまに感謝がっしょうの合掌をして下さい」と呼びかけました。神社仏閣へ観光旅行しますと、何気なしなにげにガイドさんなどからこんな台詞せりふをよく聞かされることがあります。

そのとき師は、「いや違う。お釈迦しゃかさまの教えはそんな話ではない。お前たちの乗ったリフトのロープが切れて谷底たにぞこへ落ちたなら、それもそういうめぐり合わせだったのだと引き受けて、黙って谷底たにぞこへ落ちていきなさい。無事に登る事ができるのも、ロープが切れて落ちるのも、それぞれ自分の業因縁ごういんねんなのですと、これがお釈迦しゃかさまの教えなのだと、自ら言い聞かせていました」と語られました。

聞きながら若い私は、「うん、そうだな。真実宗教、これある^{かな}」と深く共感感動させられたのが忘れられません。そんな、思わぬ^{ひうんぎやつきょう}非運^{さいかい}逆境に際会したら黙って受けろなんて、無茶な宗教なら信仰する^{かい}甲斐がないというのなら、仏教からソッポ向いて^よ余所^{あさ}を漁ったらいい。「守ってあげよう、いい目を見せてあげよう」と空約束^{から}をしたり、安請け^{やすう}合いする宗教はみな迷信^{めいしん}邪心^{じゃしん}でないですか。その見境^{みさかい}判別ができない自我満足^{じがまんぞく}に執^とられる私を、厳^{きび}しくどやしつけるのが真実^{しんじつきょう}教です。



(『生きるとは何か』)

私たちは自分の思いが満たされる事^{じがまんぞく}（自我満足）が宗教だと思いがちです。そうではなく、自我満足^{じがまんぞく}に執^とられる私を厳^{きび}しく「どやしつけ」、正しい物事^{どうり}の道理^{しんじつ}を教える事が真実^{しんじつ}教^{きょう}です。(哲弘 拝)



この「徳^{とく}朋^{ほう}」は仏教を^よ抛り所として^{じか}いる方々の言葉に直に^{じか}触れ、仏教を頭で一生懸命に理解するのではなく、この身で感じる事を願^{ねが}いとして副住職が毎月作成しています。多少難しく感じる事もあるかと思いますが、分からなくても構^{かま}わないので気にせず読んで下さい。

